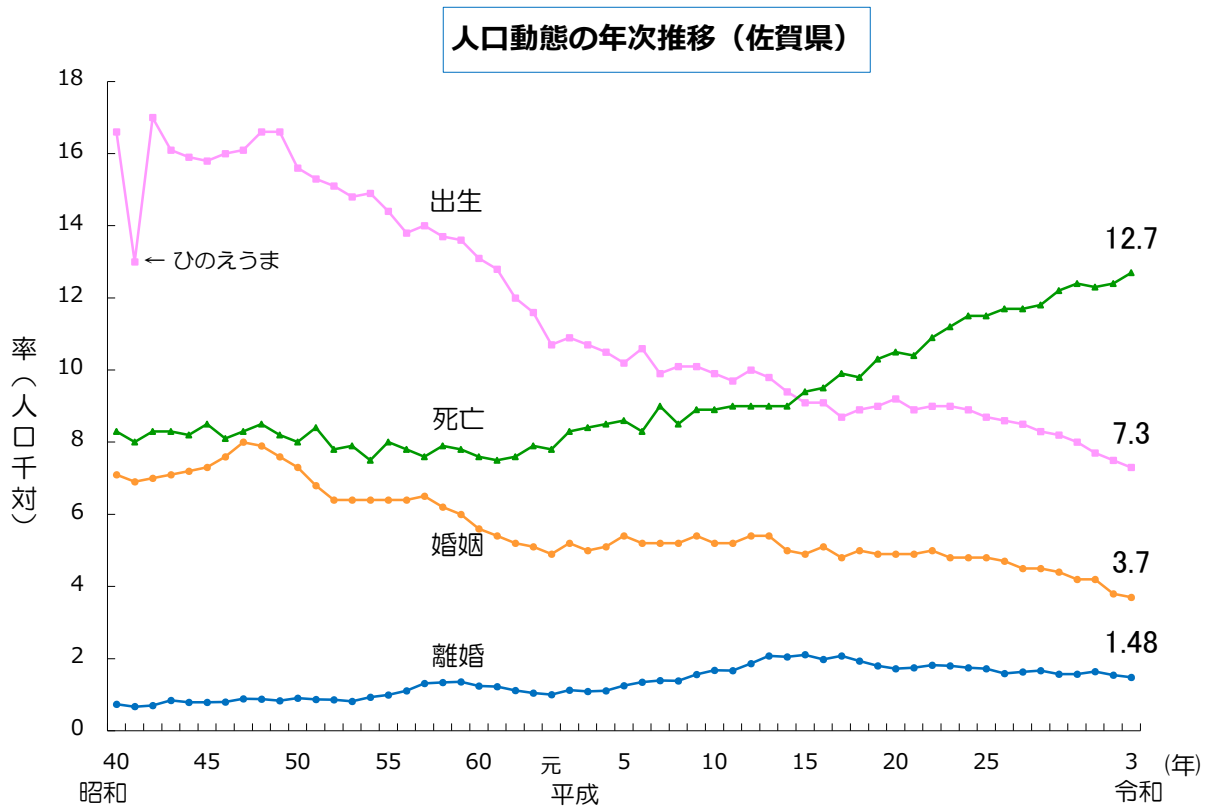


令和3年 人口動態統計月報年計（概数）の概況 —佐賀県—



目 次

結果の概要

人口動態総覧	1
1 出生数	2
2 合計特殊出生率	2
3 死亡数	3
4 死因順位	4
5 自然増減数	5
6 死産数	5
7 婚姻件数	5
8 離婚件数	5

統計表

第1表 主な死因別、悪性新生物の主な部位別死亡数・死亡率	6
第2表 選択死因死亡数・死亡率	7
第3表 死因別死亡数・死亡率	8
第4表 三大死因死亡数、性・年齢階級別	9
第5表 乳児死亡数、新生児死亡数	11
（参考） 合計特殊出生率について	12

	実数				率				全国順位		令和3年 平均発生 間隔	
	令和 3年	令和 2年	増減	対前 年比 (R2年=100)	佐賀県		全 国		令和 3年	令和 2年		
					令和 3年	令和 2年	令和 3年	令和 2年				
出生	5 853	6 004	△ 151	97.5	7.3	7.5	6.6	6.8	7	6	時 分 秒 1 29 48	
死亡	10 145	9 963	182	101.8	12.7	12.4	11.7	11.1	26	23	0 51 49	
乳児死亡	11	11	0	100.0	1.9	1.8	1.7	1.8	16	22	796 21 49	
新生児死亡	7	6	1	116.7	1.2	1.0	0.8	0.8	5	14	1 251 25 43	
自然増減	△4 292	△3 959	△ 333	△108.4	△ 5.4	△ 4.9	△ 5.1	△ 4.3	15	17	…	
死産	108	116	△ 8	93.1	18.1	19.0	19.7	20.1	35	32	81 6 40	
自然死産	54	72	△ 18	75.0	9.1	11.8	9.8	9.5	34	9	162 13 20	
人工死産	54	44	10	122.7	9.1	7.2	9.9	10.6	28	45	162 13 20	
周産期死亡	28	25	3	112.0	4.8	4.2	3.4	3.2	1	6	312 51 26	
妊娠満22週 以後の死産	21	20	1	105.0	3.6	3.3	2.7	2.5	2	3	417 8 34	
早 期 新生児死亡	7	5	2	140.0	1.2	0.8	0.6	0.7	2	12	1 251 25 43	
婚姻	2 992	3 031	△ 39	98.7	3.7	3.8	4.1	4.3	24	31	2 55 40	
離婚	1 187	1 235	△ 48	96.1	1.48	1.53	1.50	1.57	20	25	7 22 48	
合計特殊 出生率	…	…	…	…	1.56	1.59	1.30	1.33	8	7		
生活習慣病死亡	悪性新生物	2 674	2 689	△ 15	99.4	334.3	334.1	310.7	306.6	19	19	
	心疾患	1 402	1 488	△ 86	94.2	175.3	184.9	174.8	166.6	38	21	
	脳血管疾患	679	687	△ 8	98.8	84.9	85.4	85.2	83.5	34	34	

(注) 1 比率算出に用いた人口

令和2年10月1日現在推計人口（日本人人口）

（総務省統計局 「人口推計」）

令和3年10月1日現在推計人口（日本人人口）

（総務省統計局の資料に基づき、厚生労働省政策統括官付

参事官付人口動態・保健社会統計室で推計）

佐賀県 804,878 人

全 国 123,398,962 人

佐賀県 800,000 人

全 国 122,780,487 人

2 率は、出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚は人口千対、乳児死亡・新生児死亡・早期新生児死亡は出生千対、死産は出産（出生＋死産）千対、周産期死亡・妊娠満22週以後の死産は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対、生活習慣病死亡は人口10万対である。

3 合計特殊出生率とは、「15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子供の数に相当する。

4 全国順位は高率順位である。なお、同率であった場合、令和3年は概数値であるため、表示桁数により、また、令和2年は確定値であるため、表示以下桁数により順位を付している。

1 出生数は減少

出生数は5,853人で、前年の6,004人より151人減少し、出生率(人口千対)は7.3で前年の7.5を0.2ポイント下回った。

出生数を母の年齢階級(5歳階級)別にみると、30～34歳が2,002人で前年に引き続き最も多かった。また、15歳から39歳までの階級で前年より減少した。

母の年齢階級別出生数

佐賀県

母の年齢	出生数				対前年増減		
	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	(3-2)年	(2-元)年	(元-30)年
総数	5 853	6 004	6 231	6 535	△ 151	△ 227	△ 304
～14歳	1	-	-	-	1	-	-
15～19	44	65	69	87	△ 21	△ 4	△ 18
20～24	591	633	728	743	△ 42	△ 95	△ 15
25～29	1 652	1 664	1 710	1 785	△ 12	△ 46	△ 75
30～34	2 002	2 110	2 163	2 252	△ 108	△ 53	△ 89
35～39	1 259	1 284	1 266	1 355	△ 25	18	△ 89
40～44	296	245	293	303	51	△ 48	△ 10
45～49	8	3	2	9	5	1	△ 7

2 合計特殊出生率は減少

合計特殊出生率は1.56であり、前年の1.59より0.03ポイント下回った。

都道府県別にみると、令和3年は沖縄県、鹿児島県、宮崎県、島根県、長崎県、熊本県、福井県に次いで全国第8位となり、前年の7位より順位が下がった。

合計特殊出生率の年次推移

	昭和60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	29年	30年	令和元年	2年	3年
佐賀県	1.95	1.75	1.64	1.67	1.48	1.61	1.64	1.64	1.64	1.64	1.59	1.56
全国	1.76	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.45	1.43	1.42	1.36	1.33	1.30

注：合計特殊出生率は、「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性はその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

3 死亡数は増加

死亡数は10,145人で前年の9,963人より182人増加し、死亡率（人口千対）は12.7で、前年の12.4を0.3ポイント上回った。

死亡数を年齢（5歳階級）別にみると、下表のとおり75歳以上で突出しており全体の78.7%を占め、65歳以上を含めると全体の92.3%を占めている。

また、本県の死亡率はいずれの年も全国平均をかなり上回っているが、基準人口に全国の人口を使用した年齢調整死亡率で比べてみると全国の死亡率とほぼ同じことから、本県の死亡率が高いのは高齢人口の割合が高いことによるものと思われる。

年齢（5歳階級）別にみた死亡数・死亡率・死亡割合

佐賀県

年齢階級	死亡数			死亡率			死亡割合	
	令和3年	令和2年	対前年増減	人口千対		対前年増減	令和3年	令和2年
				令和3年	令和2年			
総数	10 145	9 963	182	12.7	12.4	0.3	100.0	100.0
0～4歳	14	13	1	0.4	0.4	0.0	0.1	0.1
5～9	3	1	2	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0
10～14	3	1	2	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0
15～19	11	10	1	0.3	0.3	0.0	0.1	0.1
20～24	17	10	7	0.5	0.3	0.2	0.2	0.1
25～29	17	14	3	0.5	0.4	0.1	0.2	0.1
30～34	21	13	8	0.6	0.3	0.3	0.2	0.1
35～39	25	25	0	0.6	0.6	0.0	0.2	0.3
40～44	46	45	1	0.9	0.9	0.0	0.5	0.5
45～49	68	80	△ 12	1.3	1.5	△ 0.2	0.7	0.8
50～54	118	108	10	2.4	2.3	0.1	1.2	1.1
55～59	168	182	△ 14	3.6	3.7	△ 0.1	1.7	1.8
60～64	275	312	△ 37	5.2	5.8	△ 0.6	2.7	3.1
65～69	516	513	3	8.7	8.3	0.4	5.1	5.1
70～74	862	786	76	13.4	13.3	0.1	8.5	7.9
75～79	963	950	13	24.1	22.5	1.6	9.5	9.5
80～84	1 380	1 473	△ 93	38.3	41.4	△ 3.1	13.6	14.8
85～89	2 143	2 078	65	77.3	75.5	1.8	21.1	20.9
90歳以上	3 495	3 349	146	169.6	169.4	0.2	34.5	33.6

注：率及び割合は小数点第5位まで算出し、端数処理後の小数点第1位までを表示している。

死亡率の年次推移

	昭和60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	29年	30年	令和元年	2年	3年
佐賀県	7.6	8.3	9.0	9.0	9.9	10.9	11.7	12.2	12.4	12.3	12.4	12.7
全 国	6.3	6.7	7.4	7.7	8.6	9.5	10.3	10.8	11.0	11.2	11.1	11.7
年齢調整死亡率※	6.2	6.8	7.5	7.7	8.5	9.4	10.3	10.8	11.1	11.0	11.2	11.6

※年齢調整死亡率とは人口構成の異なる集団での死亡率を比較するために、一定の基準人口にあてはめて調整した死亡率のことをいう。

注：死亡率の分母に用いた人口

国勢調査年：「国勢調査」（総務省統計局）

それ以外の年：「人口推計」（総務省統計局）、「推計人口」（県統計分析課）

注：率及び割合は端数処理後の小数点第1位までを表示している。

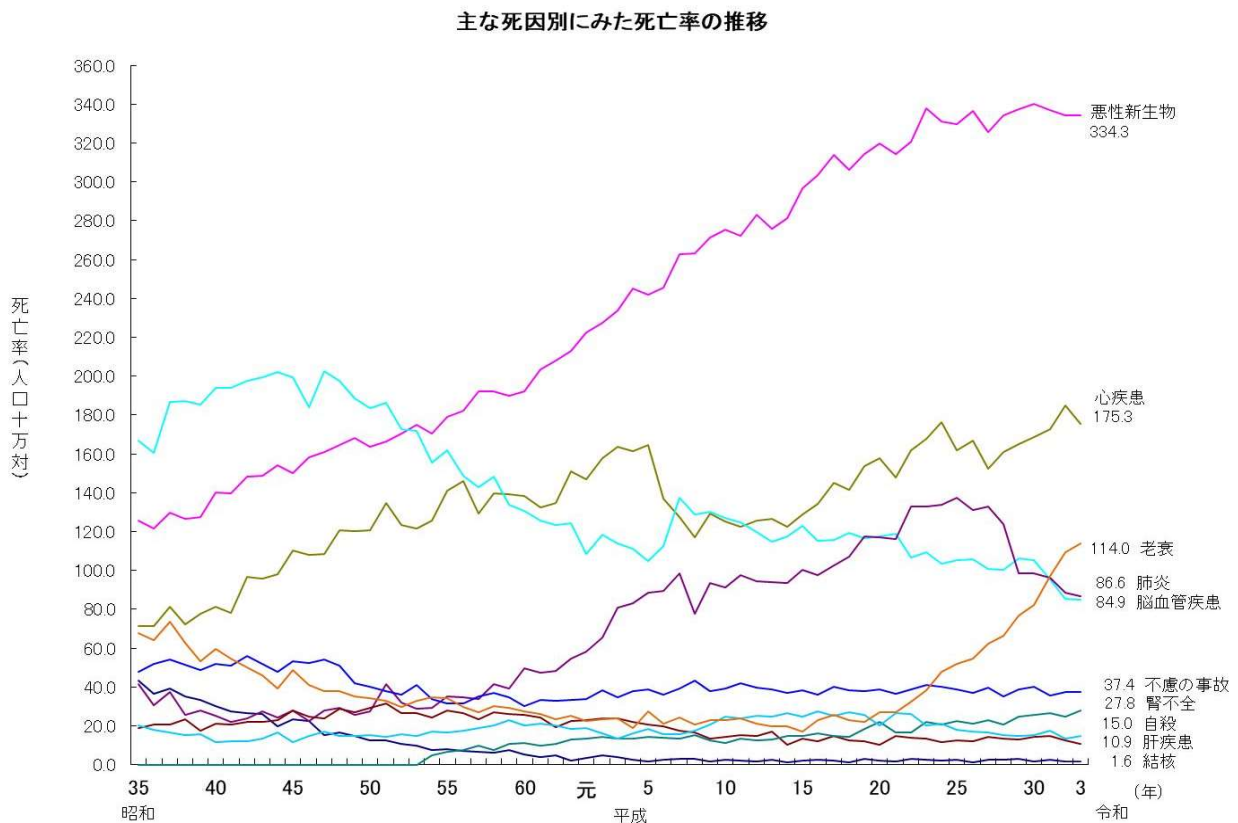
4 死因順位は悪性新生物が1位

主な死因別、悪性新生物の部位別死亡数・死亡率について、前年と比較すると第1表（統計表）のとおりである。

死因順位の第1位は悪性新生物で、昭和53年以降43年連続第1位であり、全死亡者に占める割合もおよそ26.4%で、全死亡者のおよそ3.8人に1人は悪性新生物で死亡したことになる。

主な死因の死亡率は、上位から「悪性新生物」「心疾患」「老衰」「肺炎」「脳血管疾患」の順となった。

また、悪性新生物の主な部位別死亡数は「気管、気管支及び肺」「胃」「膵」の順で多く、前年と比較すると「気管、気管支及び肺」「結腸」「前立腺」「胆のう及びその他の胆道」等は減少しているが、「膵」「胃」等で増加している。



注 1) 死因分類の改正により、年次別比較には完全な内容の一致をみることはできない。

死因内容の変遷は、人口動態統計 上巻（厚生労働省）を参照のこと。

2) 表頭の死因名等は第10回死因単分類による。

3) 「誤嚥性肺炎」は平成29年より死因順位に用いる分類項目に追加された。

4) 平成29年の「肺炎」の低下の主な要因は、ICD-10（2013年版）（平成29年1月適用）による原死因選択ルールの特異化によるものと考えられる。

5 自然増減数は減少

出生と死亡の差である自然増減数は△4, 292人で、前年の△3, 959人より333人減少し、自然増減率（人口千対）は△5. 4で、平成15年から19年連続でマイナスとなった。

6 死産数は減少

死産数は108胎で、前年の116胎より8胎減少し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は、18. 1で、前年の19. 0より0. 9ポイント下回った。

7 婚姻件数は減少

婚姻件数は2, 992組で、前年の3, 031組より39組減少し、婚姻率（人口千対）は、3. 7で、前年の3. 8より0. 1ポイント下回った。

平均初婚年齢（各届出年に結婚生活に入ったもの）は、夫は30. 1歳で前年より0. 1歳低くなり、妻は29. 1歳で前年と同じ水準であった。

平均初婚年齢の年次推移

		昭和 60年	平成 2年	7年	12年	17年	22年	27年	29年	30年	令和元年	2年	3年
佐賀県	夫	27.9	28.4	28.4	28.0	29.0	29.6	30.2	29.9	30.2	30.4	30.2	30.1
	妻	25.5	25.9	26.3	26.5	27.4	28.2	28.9	28.6	28.9	29.0	29.1	29.1
全 国	夫	28.2	28.4	28.5	28.8	29.8	30.5	31.1	31.1	31.1	31.2	31.0	31.0
	妻	25.5	25.9	26.3	27.0	28.0	28.8	29.4	29.4	29.4	29.6	29.4	29.5

8 離婚件数は減少

離婚件数は1, 187組で、前年の1, 235組より48組減少し、離婚率（人口千対）は1. 48前年の1. 53より0. 05ポイント下回った。